

図説・ガイド

# 大分の森林・林業、木材産業の現況

(平成25年度版)

平成27年3月

大分県農林水産部

# はじめに

本書は、本県の森林・林業、木材産業の現況及び各種施策の実績を図表を中心にわかりやすく解説したものです。

今後の本県の森林・林業、木材産業の発展のため関係者の皆様方に広くご活用いただければ幸いです。

## 利用される方々に

- 1 本書は、県内の民有林を主たる対象として編集したもので、林務各課室、農林水産研究指導センター林業研究部、(財)大分県森林整備センター及び(独)森林総合研究所森林農地整備センター、さらに九州森林管理局、九州農政局大分農政事務所等の資料も加えています。
- 2 本書は主として平成25年度末の資料に基づいて作成したもので、年度は会計年度(4月から翌年3月)、年次は暦年の事実を示しております。
- 3 数字の単位未満は四捨五入することを原則としているため、合計数字と内訳数字の合計が一致しない場合があります。
- 4 表中の符号は次のとおりです。
  - 「 〇 」・・・・掲載単位に満たないもの
  - 「 ー 」・・・・該当事実のないもの
  - 「・・・」・・・・事実不詳、又は資料のないもの

# 1 本県林業の主要指標（全国・九州対比）

項 目	単位	全 国	九 州	大 分	全国に おける 順位	九州に おける 順位	調査年月日	資料
総 土 地 面 積	千ha	37,796	4,219	634	22	4	H25. 10. 1	①
森 林 資 源								
森 林 面 積	千ha	25,081	2,667	453	19	4	H24. 3. 31	②
森 林 率	%	67	63	72	18	2	H24. 3. 31	②
民 有 林 面 積	千ha	17,407	2,159	405	17	3	H24. 3. 31	②
人 工 林	〃	7,962	1,202	212	14	4	H24. 3. 31	②
天 然 林	〃	8,711	807	156	18	2	H24. 3. 31	②
無 立 木 地 等	〃	572	85	24	4	1	H24. 3. 31	②
竹 林	〃	161	64	14	2	2	H24. 3. 31	②
国 有 林 面 積	〃	7,674	508	49	19	4	H24. 3. 31	②
民 有 林 人 工 林 蓄 積	千m3	2,574,633	448,441	87,901	7	2	H24. 3. 31	②
うち、スギ(5条森林)	〃	1,564,485	316,334	68,815	4	1	H24. 3. 31	②
造 林								
造 林 面 積 総 数	ha	20,277	4,127	841	3	2	H25. 3. 31	③
うち、スギ	〃	4,648	2,707	530	3	3	H25. 3. 31	③
うち、ヒノキ	〃	2,643	398	84	9	2	H25. 3. 31	③
林 道								
民 有 林 道	km	92,951	13,395	1,919	20	4	H25. 3. 31	③
国 有 林 道	〃	44,854	5,284	441	19	4	H25. 3. 31	③
林 業 経 営								
林 家 数	千戸	907	128	23	15	2	H22. 2. 1	④
林 業 産 出 額	千万円	38,873	7,731	1,748	5	2	H24. 12. 31	⑤
うち、木材生産	〃	19,156	4,639	939	5	3	H24. 12. 31	⑤
うち、栽培きのご類生産	〃	19,315	3,030	799	5	2	H24. 12. 31	⑤
生産林業所得	〃	20,685	4,584	1,108	5	2	H24. 12. 31	⑤
生 産 物								
素 材 生 産 量	千m3	19,646	4,653	928	6	3	H25. 12. 31	⑥
うち、スギ	〃	10,902	3,684	765	3	2	H25. 12. 31	⑥
うち、ヒノキ	〃	2,300	563	151	5	2	H25. 12. 31	⑥
製 材 工 場 数	工場	5,690	894	160	10	2	H25. 12. 31	⑥
製 材 品 出 荷 量	千m3	10,100	2,188	480	5	2	H25. 12. 31	⑥
新 設 住 宅 着 工 数	戸	882,797	81,625	6,670	32	5	H25. 12. 31	⑦
うち、木造数	〃	486,756	43,836	3,865	35	5	H25. 12. 31	⑦
木 造 率	%	55.1	58.3	57.9	35	4	H25. 12. 31	⑦

項 目	単位	全 国	九 州	大 分	全国に おける 順位	九州に おける 順位	調査年月日	資料
特 用 林 産 物								
乾しいたけ生産量	t	3,499	2,698	1,599	1	1	H25. 12. 31	⑧
生しいたけ生産量	〃	67,946	10,033	1,467	15	3	H25. 12. 31	⑧
えのきたけ生産量	〃	133,647	15,378	2,487	6	3	H25. 12. 31	⑧
竹 材 生 産 量	千束	1,196	1,039	52	3	3	H25. 12. 31	⑧
う ち マ ダ ケ	〃	135	84	49	1	1	H25. 12. 31	⑧
木 竹 炭 等 生 産 量	t	22,529	2,983	285	18	5	H25. 12. 31	⑧
森 林 組 合								
森 林 組 合 数	組合	660	94	13	19	4	H25. 3. 31	⑨
森 林 組 合 員 数	千人	1,555	299	46	11	3	H25. 3. 31	⑨
生 産 森 林 組 合 数	組合	2,621	446	91	11	3	H25. 3. 31	⑨
生 産 森 林 組 合 員 数	千人	235	37	10	9	1	H25. 3. 31	⑨
保 安 林								
民 有 林 保 安 林 面 積	ha	5,184,985	587,960	121,443	11	1	H25. 3. 31	③
国 有 林 保 安 林 面 積	〃	6,905,774	483,114	48,700	19	4	H25. 3. 31	③

[参考資料一覧]

番号	発 行	資 料 名
①	国土交通省国土地理院	全国都道府県市区町村別面積調(平成25年10月1日現在)
②	林 野 庁	森林資源の現況(平成24年3月31日現在)
③	林 野 庁	2014年 森林・林業統計要覧
④	農 林 水 産 省 統 計 部	2010年 世界農林業センサス
⑤	農 林 水 産 省 統 計 部	平成24年 生産林業所得統計報告書
⑥	農 林 水 産 省 統 計 部	平成25年 木材統計
⑦	国土交通省国土地理院	平成25年度版 建築統計年報
⑧	林 野 庁	平成25年 特用林産基礎資料
⑨	林 野 庁	平成24年度 森林組合統計

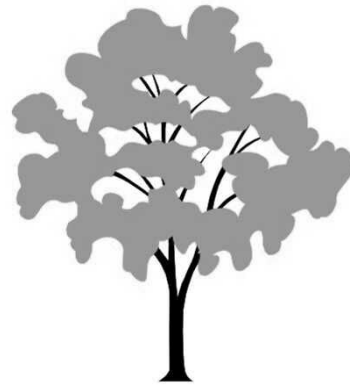
注) 九州には沖縄を含まない。

# 目 次

はじめに

一目でわかる大分の森林・林業

1 本県森林・林業の主要指標（全国・九州対比）



目次

## 1 森林資源の現況

(1) 森林面積 .....	1
(2) 森林蓄積 .....	1

## 2 民有林資源の現況

(1) 樹種別面積 .....	2
(2) 樹種別蓄積 .....	2
(3) 人工林蓄積の推移 .....	3
(4) 人工林の齢級配置 .....	3

## 3 林業生産活動

(1) 造林面積の推移 .....	4
(2) 造林樹種の割合 .....	4
(3) 保育実績の推移 .....	5
(4) 素材生産量の推移 .....	6
(5) 木材需給の推移 .....	6
(6) 素材価格の推移 .....	7
(7) 新築住宅着工戸数と木造率の推移 .....	7
(8) 乾しいたけの生産量と価格の推移 .....	8
(9) 生しいたけの生産量と価格の推移 .....	8
(10) しいたけ生産者数の推移 .....	9
(11) 竹材生産量の推移 .....	9
(12) 主な特用林産物の生産量の推移 .....	10

4	担い手の確保	
(1)	森林組合の概要	11
(2)	森林組合の主な事業における収益の推移	11
(3)	森林組合作業班員数と年齢構成の推移	12
(4)	林業就業者数の推移	12
(5)	林研グループ数と会員数の推移	13
5	林業生産基盤整備	
(1)	林道開設実績と林道密度の推移	14
(2)	作業道開設実績と密度の推移	14
(3)	林業構造改善事業等実施状況の推移	15
(4)	高性能林業機械の保有状況	15
6	森林の保全と活用	
(1)	治山事業実績の推移	16
(2)	保安林面積の推移	16
(5)	主な鳥獣害による農作物被害	17
(6)	県民の森施設利用者数の推移	17



# 1 森林資源の現況

## (1) 森林面積

### 森林率は72%で、全国平均を上回る

森林面積は45万3千haで、総土地面積の72%を占めており、全国平均を上回っている。地域森林計画対象民有林の面積は40万2千haである。

	大分県	全国
国土面積(千ha)	634	37,796
森林面積(千ha)	453 (449)	25,081
森林率(%)	72	67

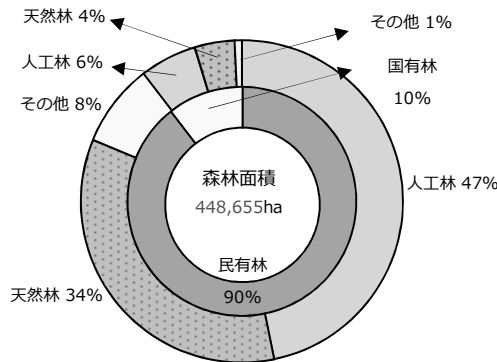
国土面積： 全国都道府県市区町村別面積調（平成25年10月1日）

森林面積： 森林法第2条第1項に規定する全ての森林（林野庁「森林資源現況」：平成19年3月31日現在）

※ 森林法第2条第1項に規定する森林： 地域森林計画に規定する民有林＋その他の森林（市街化区域及び林野庁以外の省庁が所管する森林等）＋林野庁所管国有林

※ ただし、カッコ内は地域森林計画対象民有林（林務管理課：平成26年3月31日現在）＋林野庁所管国有林（九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」：平成21, 23, 24, 25年度）

森林率： （森林法第2条第1項に規定する全ての森林）÷（総土地面積）



単位：ha

	人工林	天然林	その他	計
民有林	209,909	154,532	37,449	401,890
国有林	25,540	18,080	3,155	46,775
計	235,449	172,612	40,604	448,665

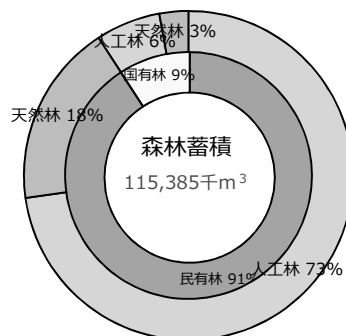
国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成21, 23, 24, 25年度）

民有林：林務管理課「地域森林計画対象民有林」（平成26年3月31日現在）

## (2) 森林蓄積

### 民有林の森林蓄積は91%を占める

森林蓄積は1億2千万m<sup>3</sup>であり、うち民有林における森林蓄積は1億6百万m<sup>3</sup>で91%を占める。



単位：千m<sup>3</sup>

	人工林	天然林	計
民有林	85,401	21,079	106,480
国有林	7,461	3,332	10,794
計	92,862	24,411	117,274

国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成21, 23, 24, 25年度）

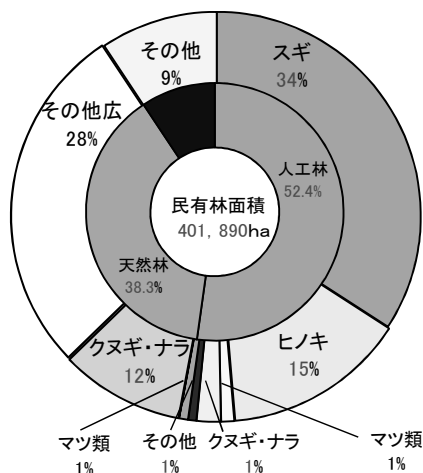
民有林：林務管理課（平成26年3月31日現在）

## 2 民有林資源の現況

### (1) 民有林樹種別面積

#### スギの人工林が34%を占める

民有林のうち、スギの人工林が34%、ヒノキの人工林が15%を占める。また、クヌギ・ナラ林の面積は人工林、天然林を合わせると12%を占める。



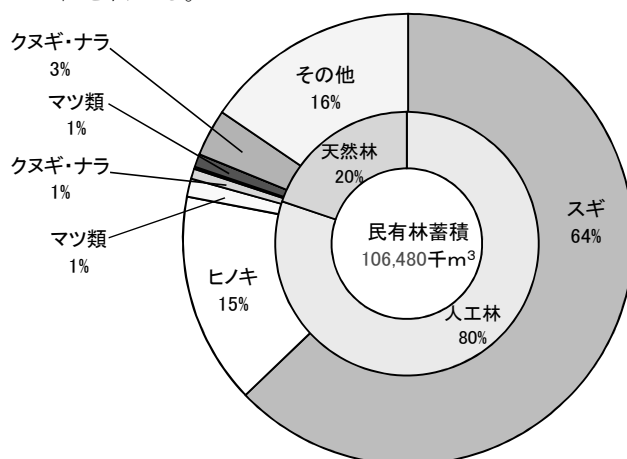
民有林面積(ha)	人工林		天然林		その他(竹林・無立木地等)
401,890	209,910		154,532		37,449
人工林	スギ	ヒノキ	マツ類	クヌギ・ナラ	その他
	137,280	58,247	4,083	7,707	2,593
天然林	マツ類	その他針	クヌギ・ナラ	その他広	
	2,889	4	39,415	112,224	

林務管理課(平成26年3月31日現在)

### (2) 樹種別蓄積

#### 人工林の蓄積は85百万m<sup>3</sup>

民有林蓄積1億6百万m<sup>3</sup>のうち、人工林は85百万m<sup>3</sup>で80%を占める。また、スギの蓄積は67百万m<sup>3</sup>で、民有林全体の64%を占める。



民有林蓄積(千m <sup>3</sup> )	人工林			天然林	
106,480	85,401			21,079	
人工林	スギ	ヒノキ	マツ類	クヌギ・ナラ	その他
	66,921	16,174	1,375	772	159
天然林	マツ類	クヌギ・ナラ	その他針	その他広	
	1,011	3,589	2	16,478	

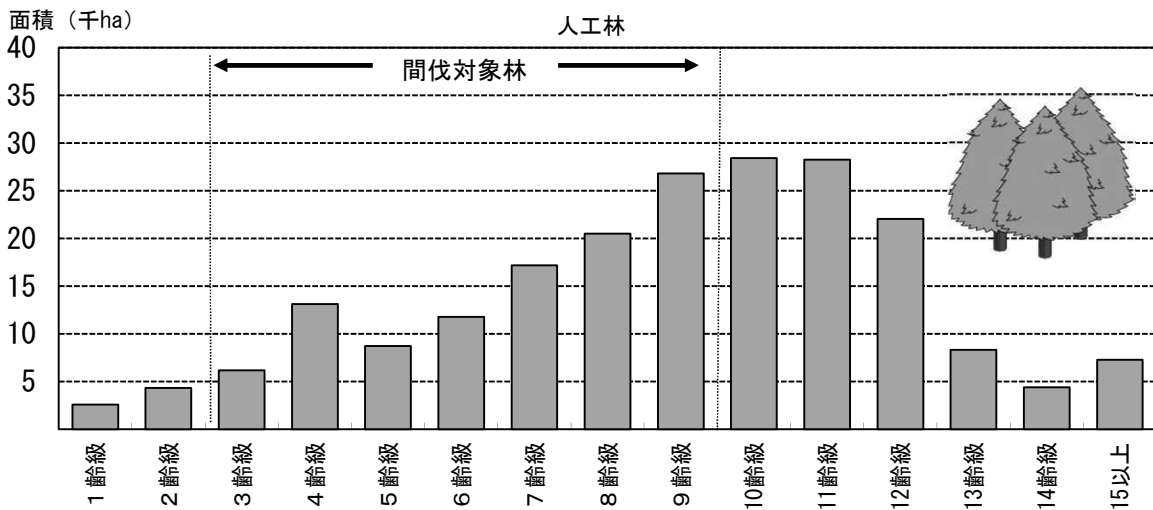
林務管理課(平成26年3月31日現在)



(3) 人工林の齢級配置

人工林の間伐対象林の割合は人工林全体の50%

民有林の人工林は、戦後に拡大造林された森林資源が着実に充実している。



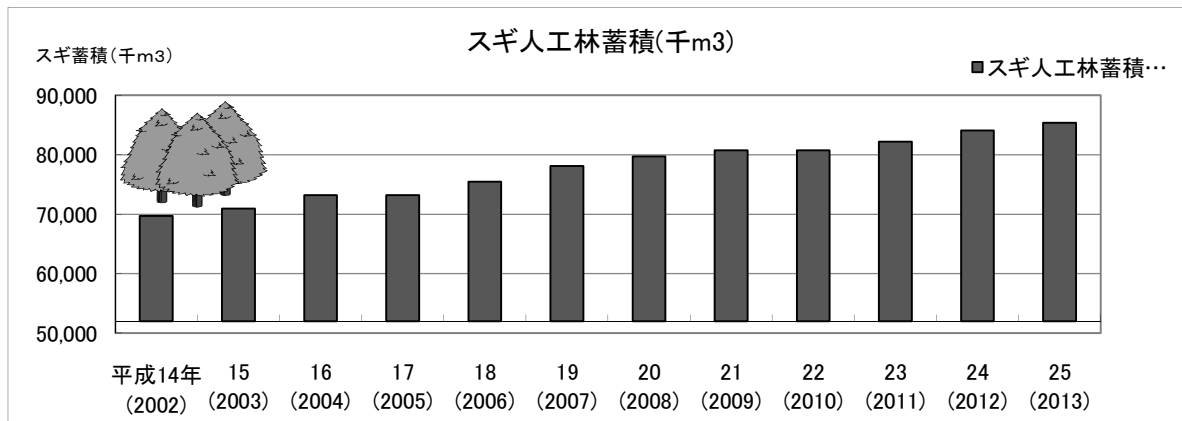
齢級	1 齢級	2 齢級	3 齢級	4 齢級	5 齢級	6 齢級	7 齢級	8 齢級
人工林面積 (ha)	2,570	4,317	6,172	13,103	8,715	11,792	17,185	20,511
齢級	9 齢級	10 齢級	11 齢級	12 齢級	13 齢級	14 齢級	15 齢級以上	合計
人工林面積 (ha)	26,799	28,436	28,245	22,055	8,323	4,404	7,281	209,909

林務管理課 (平成26年3月31日現在)

(4) スギ人工林蓄積の推移

スギ人工林蓄積は増加傾向

民有林のスギ人工林蓄積は引き続き増加傾向で推移しており85,401千m3となっている。



年 度	平成14年 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)
スギ蓄積 (千m3)	69,704	70,939	73,224	73,224	75,493	78,110	79,750	80,736	80,736
年 度	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)						
スギ蓄積 (千m3)	82,225	84,097	85,401						

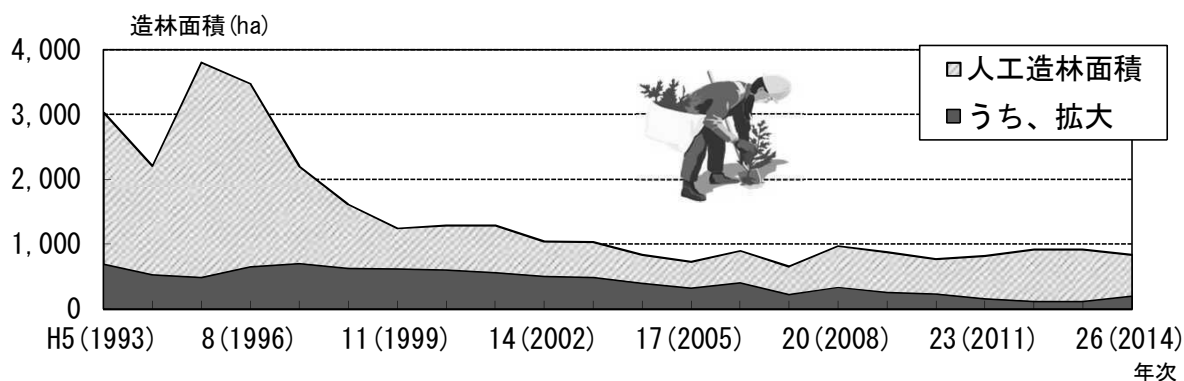
林務管理課 (平成26年3月31日現在)

### 3 林業生産活動

#### (1) 造林面積の推移

造林面積は減少傾向が続く

人工造林面積は昭和47年の7,135haをピークに徐々に減少している。平成3年並びに平成5年の台風被害により復旧に伴う再造林が急増したものの、その後は長引く材価の低迷により主伐面積が減少し、近年は横ばい傾向にある。



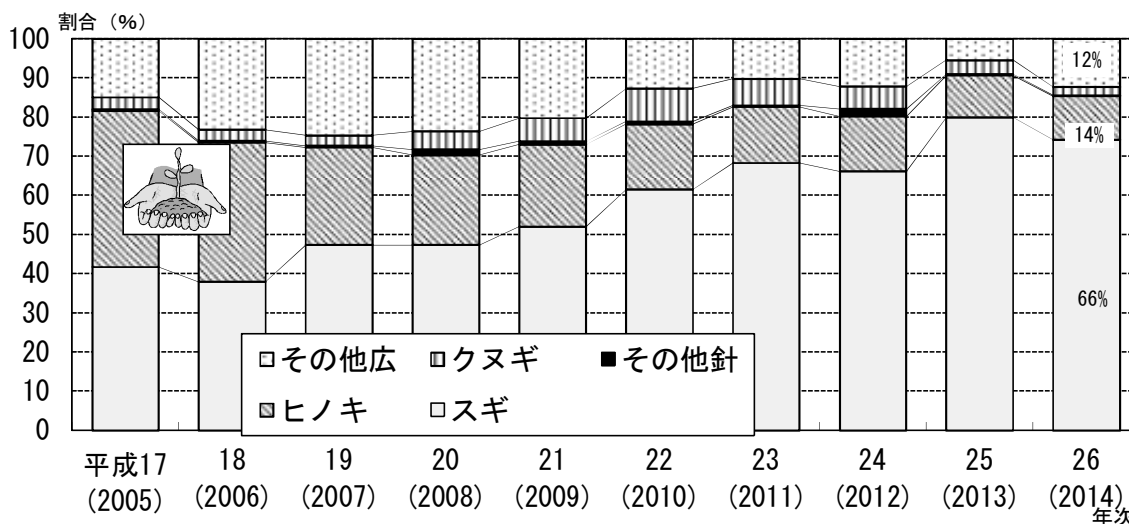
年次	H5(1993)	6(1994)	7(1995)	8(1996)	9(1997)	10(1998)	11(1999)	12(2000)	13(2001)	14(2002)	15(2003)
造林面積 (ha)	3,032	2,207	3,807	3,477	2,204	1,617	1,243	1,289	1,290	1,041	1,034
うち、拡大 (ha)	685	523	483	648	696	620	617	597	560	503	481
年次	16(2004)	17(2005)	18(2006)	19(2007)	20(2008)	21(2009)	22(2010)	23(2011)	24(2012)	25(2013)	26(2014)
造林面積 (ha)	837	734	898	660	971	880	770	816	917	915	839
うち、拡大 (ha)	390	322	402	217	331	256	226	155	113	110	191

森林整備室（平成26年12月末現在）

#### (2) 造林樹種の割合

スギが造林樹種の70%を占める

平成26年春植の造林樹種はスギが最も多く、スギとヒノキで全体の85%を占める。また、広葉樹では、ケヤキ、ヤマザクラ、モミジ等造林の定着が見られる。



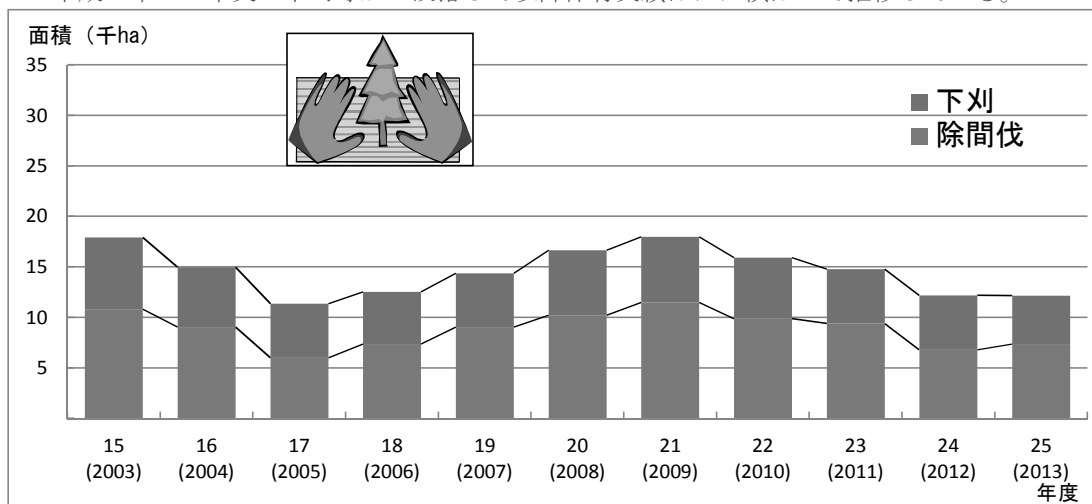
年次	平成17(2005)	18(2006)	19(2007)	20(2008)	21(2009)	22(2010)	23(2011)	24(2012)	25(2013)	26(2014)
スギ (ha)	306	341	313	459	458	474	558	607	728	623
ヒノキ (ha)	293	319	164	223	184	128	117	128	98	93
その他針 (ha)	3	4	2	14	7	5	3	18	3	2
クヌギ (ha)	22	26	18	45	52	65	55	52	32	18
その他広 (ha)	110	208	163	230	179	97	84	112	50	103

森林整備室（平成26年12月末現在）

(3) 保育実績の推移

保育実績は横ばい

平成3年・5年災の下刈等が一段落して以降保育実績はほぼ横ばいで推移している。



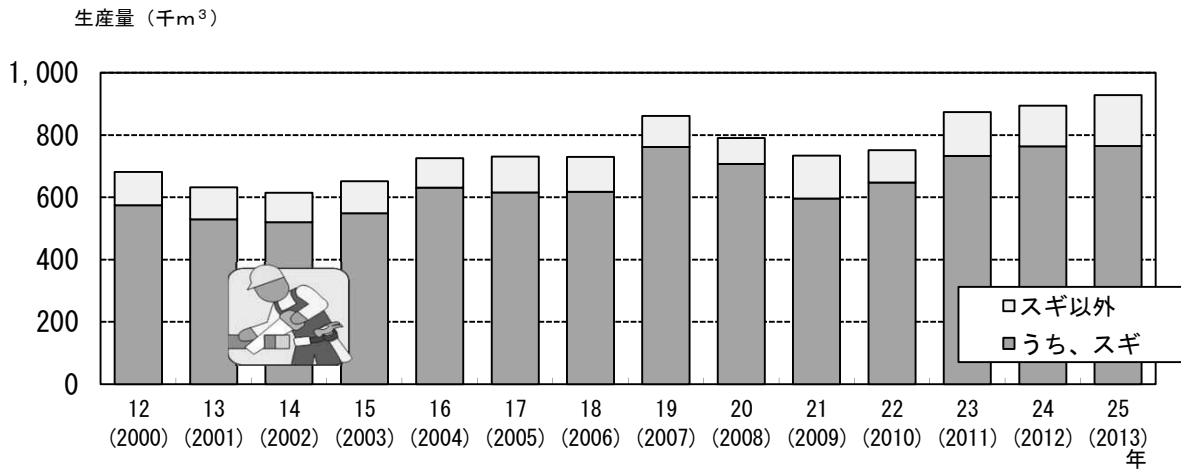
年 度	平成13年 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)
下 刈(ha)	8,915	8,018	7,118	5,927	5,349	5,159	5,334	6,406	6,493
除 間 伐(ha)	12,044	12,057	10,809	9,054	6,010	7,375	9,043	10,234	11,480
保 育 計(ha)	20,959	20,075	17,927	14,981	11,359	12,534	14,377	16,640	17,973
年 度	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)					
下 刈(ha)	6,045	5,399	5,364	4,806					
除 間 伐(ha)	9,879	9,385	6,812	7,357					
保 育 計(ha)	15,925	14,784	12,177	12,163					

森林整備室 (平成26年3月31日現在)

(4) 素材生産量の推移

平成25(2013)年次の素材生産量は928千 $m^3$

素材生産量は、平成6(1994)年次をピークに減少傾向にあったが、合板・集成材等の国産材需要の増大に伴い、県内の生産量も増加している。樹種別ではスギが圧倒的に多く、全生産量の82%を占めている。



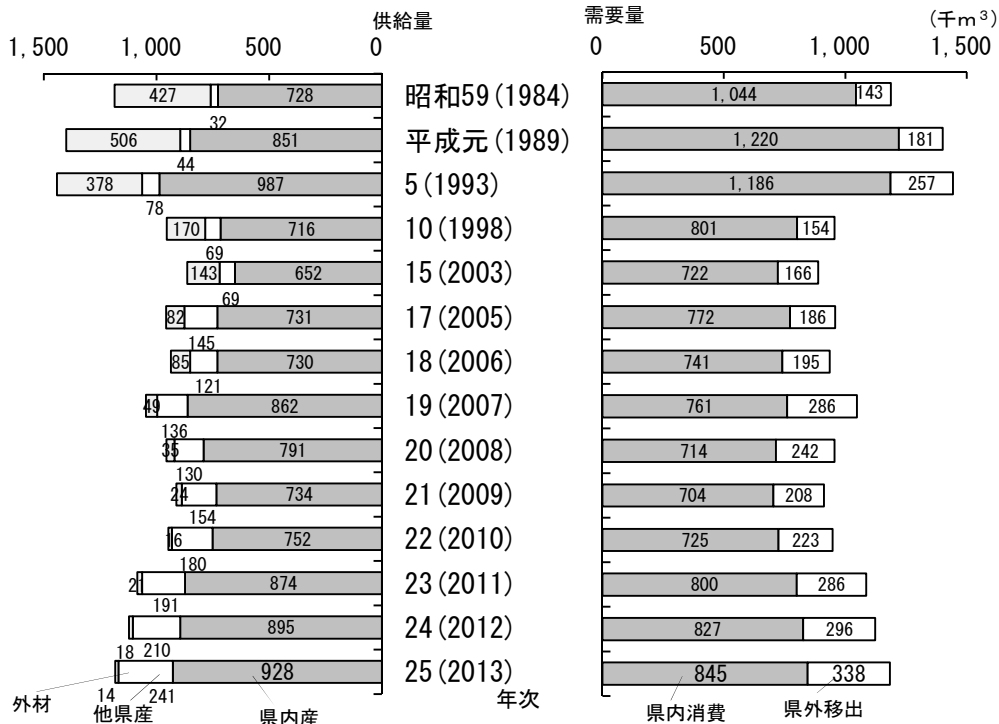
年次	12 (2000)	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
スギ(千 $m^3$ )	575	529	520	549	631	616	618	762	707	596	648	733	764	765
総数(千 $m^3$ )	682	632	615	652	726	731	730	862	791	734	752	874	895	928

農林水産省統計部「木材需給報告書」(平成24(2012)年12月31日現在)  
 ※平成25(2013)年次は「平成25年木材統計」(平成25(2013)年12月31日現在)を使用

(5) 木材需給の推移

平成25(2013)年次需給量は1,183千 $m^3$ で、県内産の割合は78%

木材需給量は平成6(1994)年次をピークに減少傾向であったが、平成15年次以降増加傾向にある。需要量に占める県内産の割合はおおよそ横ばいで推移し78%となっている。

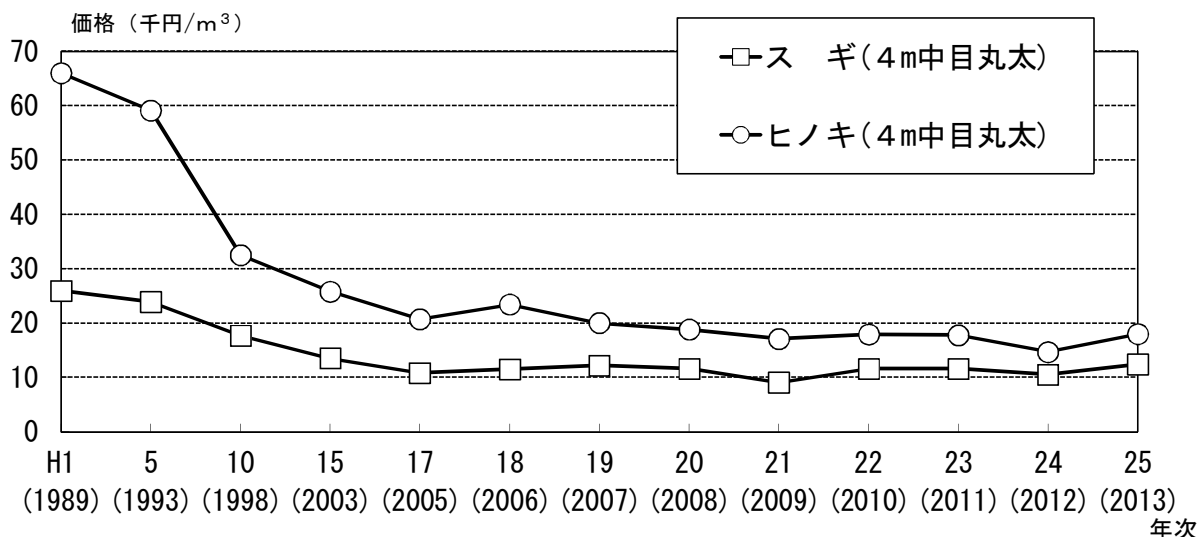


農林水産省統計部「木材需給報告書」(平成24(2012)年12月31日現在)  
 ※平成25(2013)年次は「平成25年木材統計」(平成25(2013)年12月31日現在)を使用

(6) 素材価格の推移

平成25(2013)年次のスギ4m中目丸太素材価格は12,400円/m<sup>3</sup>

平成25(2013)年次における4m中目丸太の素材価格は、スギが12,400円/m<sup>3</sup>、ヒノキが18,000円/m<sup>3</sup>であった。26年4月から消費税率が上昇する影響から、素材価格が増加した。

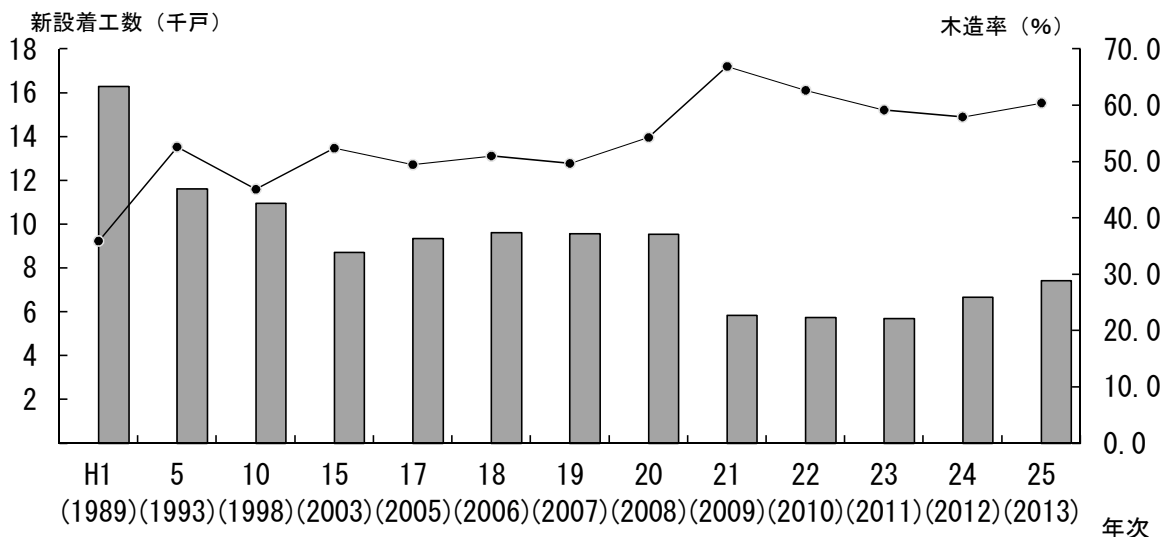


年次	昭和59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
スギ (千円/m <sup>3</sup> )	26.4	25.9	23.9	17.7	13.5	10.8	11.5	12.2	11.6	9.1	11.6	11.6	10.5	12.4
ヒノキ (千円/m <sup>3</sup> )	55.8	66.0	59.1	32.5	25.8	20.7	23.4	20.0	18.8	17.1	17.9	17.8	14.7	18.0

「木材価格(概数) (平成26(2014)年1月7日現在)

(7) 新設住宅着工戸数と木造率の推移

平成21年次のリーマンショック以降、着工戸数は大幅に減少したが、平成25年次は、7,431戸となり23年次から徐々に増加傾向にある。



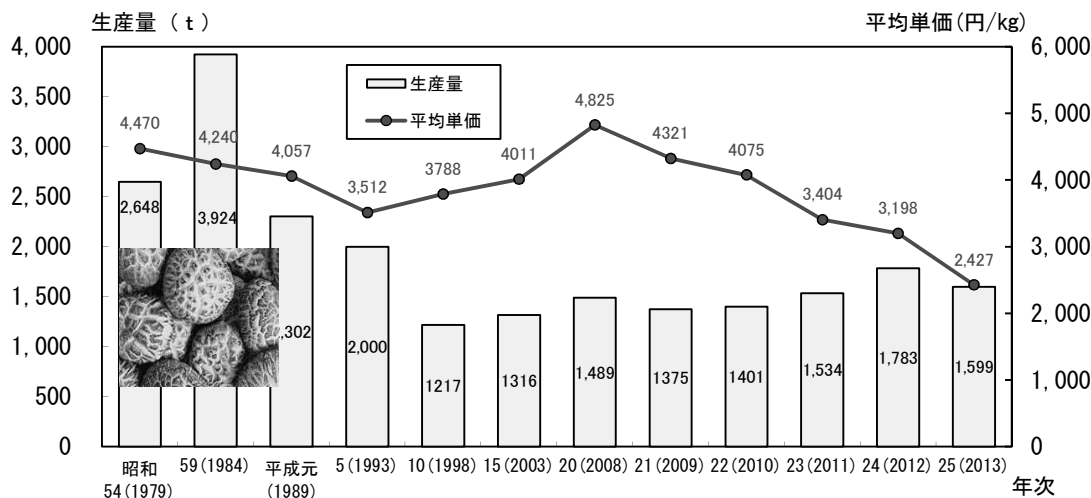
年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)
新設住宅着工戸数(戸)	15,668	10,970	16,297	11,607	10,952	8,718	9,345	9,610	9,563
木造率(%)	57.7	49.5	35.9	52.6	45.1	52.4	49.5	51.0	49.7
年次	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)			
新設住宅着工戸数(戸)	9,550	5,840	5,758	5,691	6,670	7,431			
木造率(%)	54.3	66.9	62.7	59.2	57.9	60.4			

国土交通省「建築統計年報」(平成25(2013)年12月31日現在)

(8) 乾しいたけの生産量と価格の推移

生産量は1,599t、平均単価は2,427円/kg

生産量は前年次より184t減少したが、全国シェアの46% (全国1位) を誇っている。平均価格は前年次を771円下回っている。



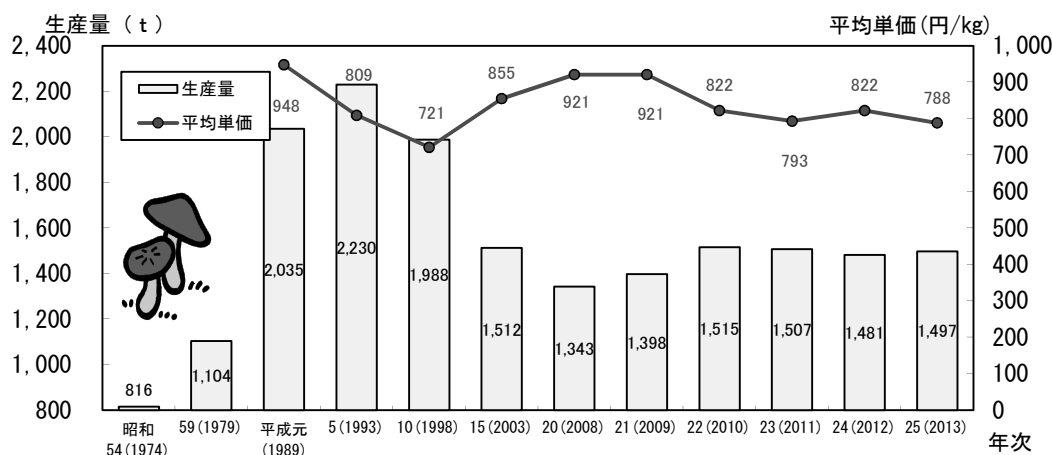
年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)
生産量(t)	2,648	3,924	2,302	2,000	1,217	1,316
平均単価(円/kg)	4,470	4,240	4,057	3,512	3,788	4,011
年次	20(2008)	21(2009)	22(2010)	23(2011)	24(2012)	25(2013)
生産量(t)	1,489	1,375	1,401	1,534	1,783	1,559
平均単価(円/kg)	4,825	4,321	4,075	3,404	3,198	2,427

生産量：林産振興室「特用林産物需給表」（平成25年12月31日現在） 平均単価：大分県椎茸農業協同組合「業務報告書」

(9) 生しいたけの生産量と価格の推移

生産量は1,497t、平均単価は788円/kg

生産量は前年次より16t増加した。平均単価は前年次を34円下回っている。



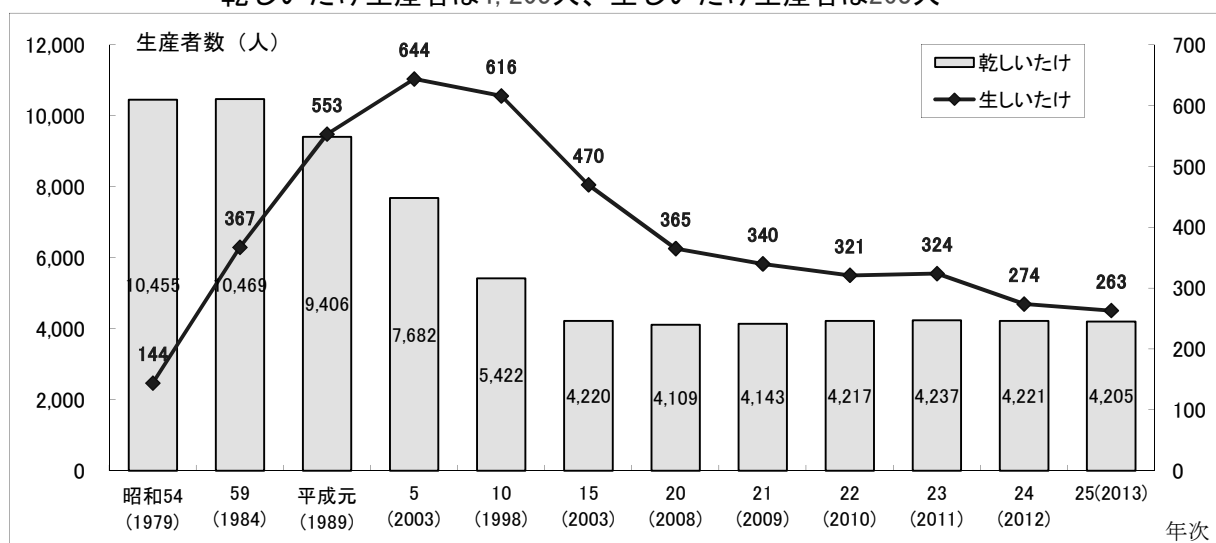
年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)
生産量(t)	816	1,104	2,035	2,230	1,988	1,512
平均単価(円/kg)	-	-	948	809	721	855
年次	20(2008)	21(2009)	22(2010)	23(2011)	24(2012)	25(2013)
生産量(t)	1,343	1,398	1,515	1,507	1,481	1,497
平均単価(円/kg)	899	921	822	793	822	788

生産量：林産振興室「特用林産物需給表」（平成25年12月31日現在）

平均単価：大分市公設地方卸売市場「市場年報」

(10) しいたけ生産者数の推移

乾しいたけ生産者は4,205人、生しいたけ生産者は263人



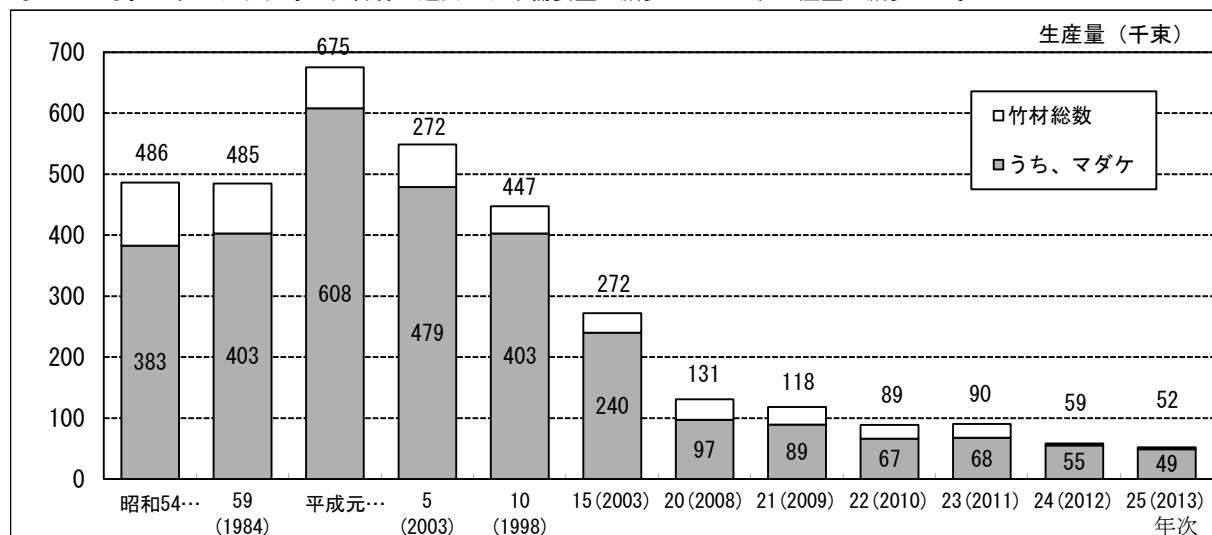
年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
乾しいたけ (戸)	10,455	10,469	9,406	7,682	5,422	4,220	4,109	4,143	4,217	4,237	4,221	4,205
生しいたけ (戸)	144	367	553	644	616	470	365	340	321	324	274	263
内(菌床)	-	-	-	(50)	(101)	(91)	(70)	(60)	(64)	(65)	(64)	(54)

林産振興室「特用林産物需給表」(平成25年12月31日現在)

(11) 竹材生産量の推移

竹材の生産量は52千束

大分県の竹材生産量は全国第3位であり、特に本県竹材生産量の約93%を占めるマダケの生産量は全国第1位となっている。プラスチック等の代替材の進出により需要量が減少したため、生産量は減少した。

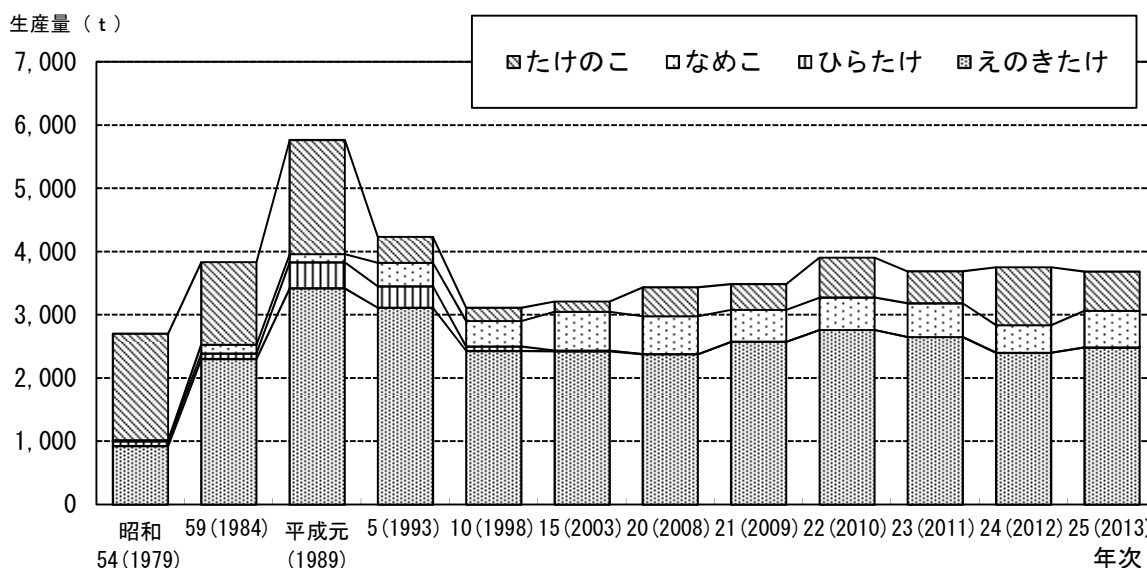


年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
マダケ (千束)	382.8	403.0	608.3	479.0	403.0	239.8	97.2	89.4	66.5	68.0	55.2	48.7
竹材総数 (千束)	486.2	484.5	675.3	548.8	447.2	272.3	130.6	118.4	88.9	90.2	58.5	52.1

林産振興室「特用林産物需給表」(平成25年12月31日現在)

(12) 主な特用林産物の生産量の推移

えのきたけは日田市で大規模に安定した生産が行われている。  
たけのこは国産需要の高まりにより近年は生産量が増加している。



年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)
生しいたけ(t)	816	1104	2,035	2,230	1,988	1,512
えのきたけ(t)	925	2,302	3,422	3,112	2,429	2,426
ひらたけ(t)	76	87	412	340	73	14
なめこ(t)	17	139	129	372	403	610
きのこ類 小計(t)	1,834	3,632	5,998	6,055	4,893	4,562
たけのこ(t)	1,686	1,307	1,805	410	210	162
木炭(t)	—	729	762	603	667	417
年次	20(2008)	21(2009)	22(2010)	23(2011)	24(2012)	25(2013)
生しいたけ(t)	1,343	1,398	1,515	1,507	1,481	1,497
えのきたけ(t)	2,379	2,577	2,762	2,652	2,403	2,487
ひらたけ(t)	—	—	1	1	—	1
なめこ(t)	602	504	512	531	433	579
きのこ類 小計(t)	4,324	4,479	4,790	4,691	4,317	4,564
たけのこ(t)	458	409	631	505	917	621
木炭(t)	366	361	405	386	347	285

林産振興室「特用林産物需給表」(平成25年12月31日現在)



## 4 担い手の確保

### (1) 森林組合の概要

#### 地域林業の中核的な担い手として期待される森林組合

森林組合の広域合併を積極的に推進した結果、平成6年度をもって目標とする13森林組合体制が確立された。森林組合に対するニーズは森林の適正な整備管理はもとより、地域林業の振興、林業労働力の確保などますます多様化しており、中核的担い手としてその果たすべき役割は一層重要なものとなっている。

このため、自己資本の充実等経営基盤の強化を図り、森林施業の受託や林産事業の拡大等により事業を推進している。

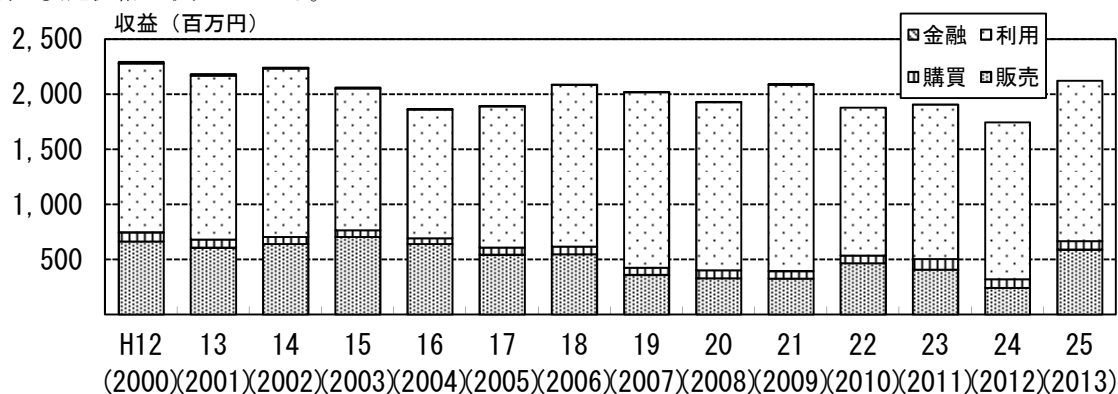
組合名	所在地	常勤役員数 (人)	総面積 (ha)	組合員 所有面積 (ha)	組合員数 (人)	払込済出資 金 (千円)	作業班員 数 (人)	設立年月 日
西 高	豊後高田市	6	15,202	11,800	2,383	25,335	13	S55. 4. 1
東国東郡	国 東 市	8	19,811	13,790	2,985	40,458	18	H 3. 1. 10
別杵速見	杵 築 市	8	21,966	15,440	2,716	76,788	18	H 6. 11. 1
おおいた	由 布 市	13	40,452	31,942	3,901	171,678	6	H 5. 3. 26
白 津 関	白 杵 市	5	17,597	10,390	1,998	27,213	11	H 6. 3. 31
佐伯広域	佐 伯 市	34	64,362	49,463	5,285	692,711	93	H 2. 3. 31
大 野 郡	豊後大野市	23	47,072	29,266	4,011	225,911	57	H元. 4. 1
竹田直入	竹 田 市	19	28,170	21,338	3,392	98,870	41	H元. 10. 2
玖 珠 郡	玖 珠 町	17	35,229	26,847	3,636	137,617	94	S63. 9. 1
日 田 市	日 田 市	28	20,566	18,649	4,483	423,372	125	S41. 6. 1
日 田 郡	日 田 市	23	32,350	29,185	4,390	468,619	121	S53. 10. 1
山国川流域	中 津 市	20	35,612	30,778	4,574	107,775	79	S61. 4. 1
宇佐地区	宇 佐 市	12	25,781	14,304	1,980	74,513	28	H 4. 6. 1

林務管理課「森林組合の概況」(平成26年6月30日現在)

### (2) 森林組合の主な事業における事業総利益の推移

#### 森林整備の取組による経営基盤の強化

森林組合の主な事業における事業総利益は、平成25年度は約21.2億円で、間伐等の森林整備や木材の安定供給に取組んでいる。



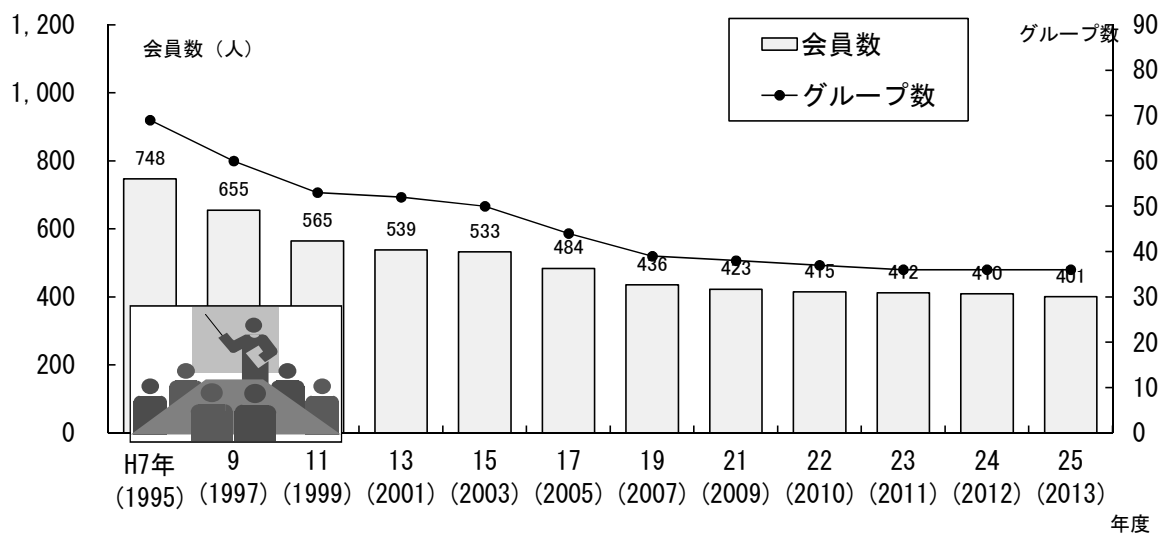
(単位：百万円)

年 度	H12 (2000)	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)
販 売	665	608	640	704	639	542	547	360
購 買	82	74	64	63	55	68	71	66
利 用	1,533	1,490	1,530	1,288	1,168	1,280	1,467	1,593
金 融	13	10	7	5	4	3	3	2
合 計	2,293	2,182	2,241	2,060	1,866	1,893	2,087	2,021
年 度	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)		
販 売	329	327	466	408	242	590		
購 買	72	67	70	96	79	76		
利 用	1,527	1,696	1,344	1,401	1,425	1,456		
金 融	1	1	0	0	0	0		
合 計	1,929	2,091	1,880	1,905	1,746	2,122		

林務管理課「森林組合の概況」(平成26年6月30日現在)

## (5) 林研グループ数と会員数の推移

昭和37年に地域林業の中核的な担い手の育成を目指して大分県林研グループ連合会が発足したが、以後グループ数・会員数ともに減少傾向が続いている。



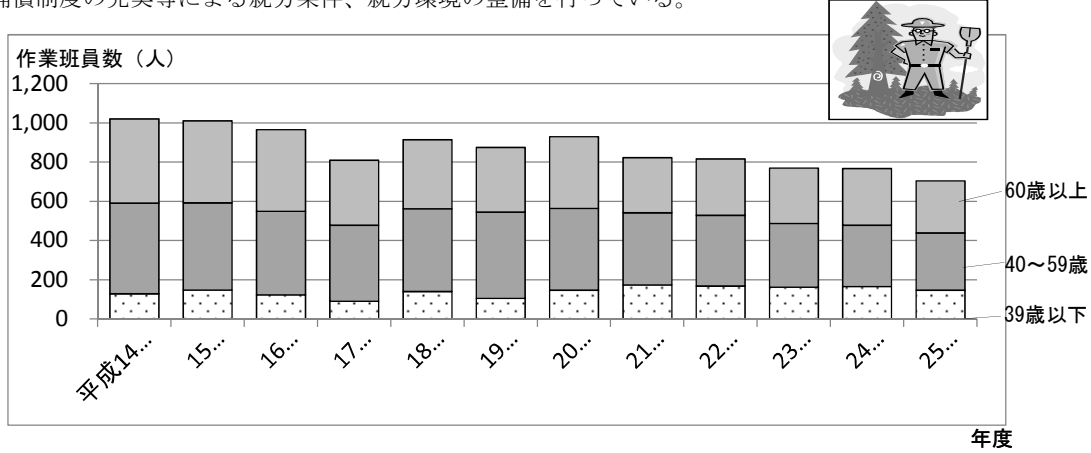
	H7年 (1995)	9 (1997)	11 (1999)	13 (2001)	15 (2003)	17 (2005)	19 (2007)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
グループ数	69	60	53	52	50	44	39	38	37	36	36	36
会員数	748	655	565	539	533	484	436	423	415	412	410	401

林務管理課「林研グループ実態調査」(平成25年3月31日現在)

### (3) 森林組合作業班員数と年齢構成の推移

#### 高齢化等による減少と進み始めた新規就業者の確保

森林整備の主要な担い手である森林組合作業班員は、高齢化等による減少や新規就業者の確保等によりほぼ横ばいで、60歳以上の割合は平成25年度は38%となっている。「緑の雇用対策」や社会補償制度の充実等による就労条件、就労環境の整備を行っている。



年 度	平成14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
39歳以下(人)	129	148	122	90	140	105	146	174	168	162	165	147
40～59歳(人)	462	444	427	388	423	440	418	368	361	326	313	292
60歳以上(人)	429	419	417	331	351	330	366	281	287	282	289	265
合 計(人)	1,020	1,011	966	809	914	875	930	823	816	770	767	704

林務管理課「森林組合の概況」(平成26年6月30日現在)

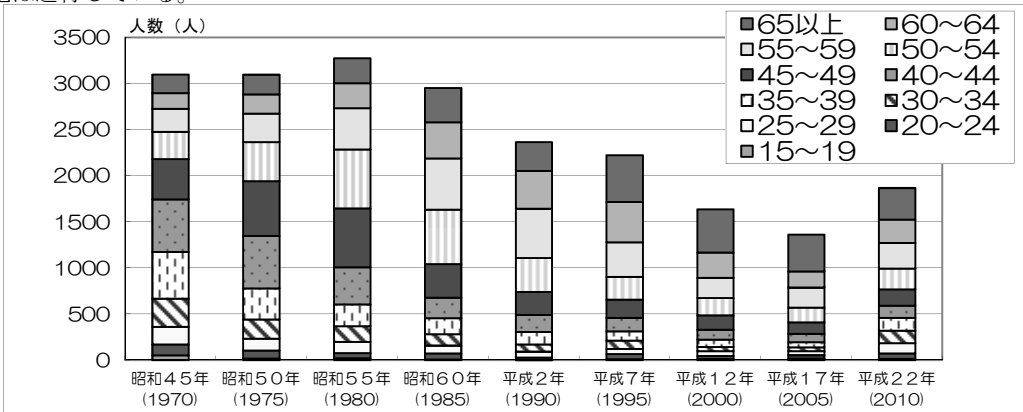
(注) 18年度は組合雇用労働者全体を掲載

18年度合計の( )内は森林組合作業班員数

### (4) 林業就業者数の推移

#### 平成22年度調査結果の林業就業者数は1,866人

昭和45年度の調査結果に対して、就業者数及び若年層の減少傾向が顕著に現れている。逆に高齢化は進行している。



年 齢 階 層	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65以上	計
昭和45年(1970)	51	119	191	306	507	572	435	294	251	170	203	3,099
昭和50年(1975)	15	89	129	208	339	567	594	423	312	208	212	3,096
昭和55年(1980)	22	54	122	171	235	403	640	637	450	272	269	3,275
昭和60年(1985)	8	66	85	122	174	222	366	590	557	391	370	2,951
平成2年(1990)	3	26	62	79	134	186	249	369	533	411	311	2,363
平成7年(1995)	12	54	56	88	103	143	202	246	374	437	510	2,225
平成12年(2000)	13	33	51	46	82	106	154	189	220	272	471	1,637
平成17年(2005)	16	39	43	41	58	87	124	161	218	174	401	1,362
平成22年(2010)	13	62	108	137	139	129	179	226	278	254	341	1,866

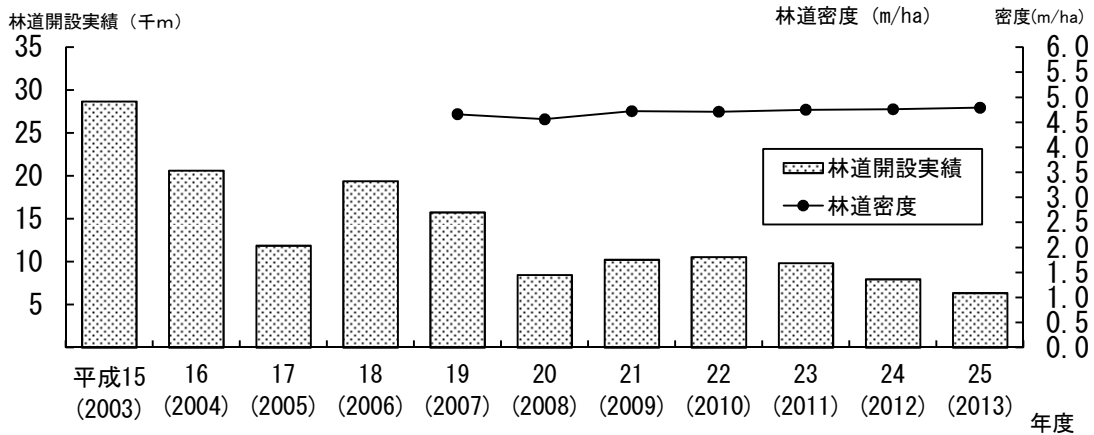
平成22年度国勢調査

※ 平成22年度は、平成17年度までの調査区分に「林業に関して管理、補助的経済活動を行う事務所の就業者」を追加

## 5 林業生産基盤の整備状況

### (1) 林道開設実績と林道密度の推移

林道密度はほぼ横ばいで、平成25年度で4.79m/haとなる。



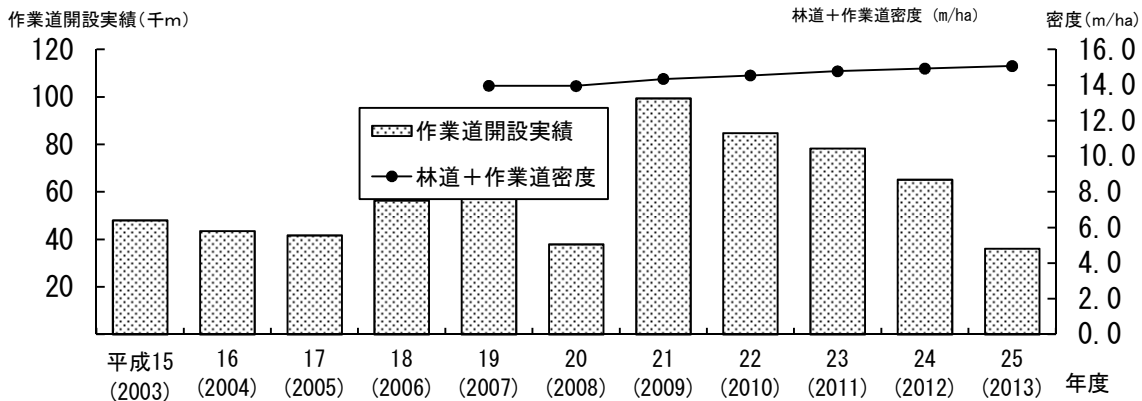
年 度	平成15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)
林道開設実績 (m)	28,677	20,636	11,865	19,380	15,756	8,454	10,238
林道密度 (m/ha)	-	-	-	4.56	4.66	4.56	4.72
年 度	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)			
林道開設実績 (m)	10,539	9,816	7,949	6,352			
林道密度 (m/ha)	4.71	4.75	4.76	4.79			

※密度は開設実績の現況  
林務管理課 (平成26年3月31日現在)

### (2) 作業道開設実績と密度の推移

林道を補完し、森林施業を効率的にする目的で作業道の整備を進めている

平成25年度末の林道+作業道密度は 15.07 m/haであり漸次増加している。



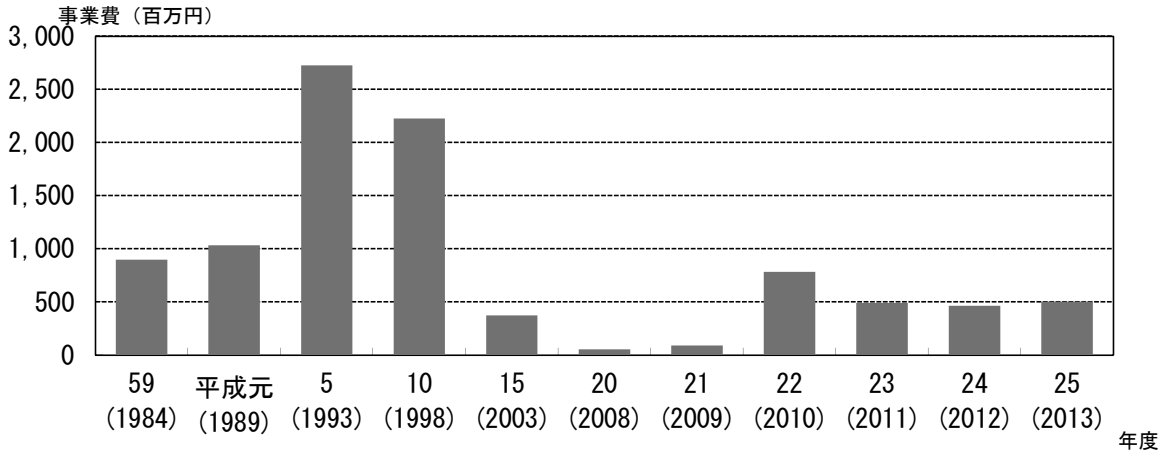
年 度	平成15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)
作業道開設実績 (m)	48,064	43,547	41,740	56,295	67,460	37,940	99,387
(林道+作業道)密度 (m/ha)	-	-	-	13.69	13.96	13.95	14.34
年 度	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)			
作業道開設実績 (m)	84,836	78,382	65,188	36,053			
(林道+作業道)密度 (m/ha)	14.54	14.78	14.93	15.07			

※密度は開設実績の現況  
林務管理課 (平成26年3月31日現在)

(3) 林業構造改善事業等実施状況の推移

平成25(2013)年度実績は502,50万円

林業経営や施業の担い手の育成、競争力のある木材産地の形成と地域材の安定的な供給を目的として、効率的な林業生産体制の確立、林産物の加工・流通のコスト低減等林業・木材産業の構造改革を総合的に推進している。また、平成22年度以降は国の「森林整備加速化・林業再生基金」を財源として、原木市場及び木材加工施設への施設整備を実施している。



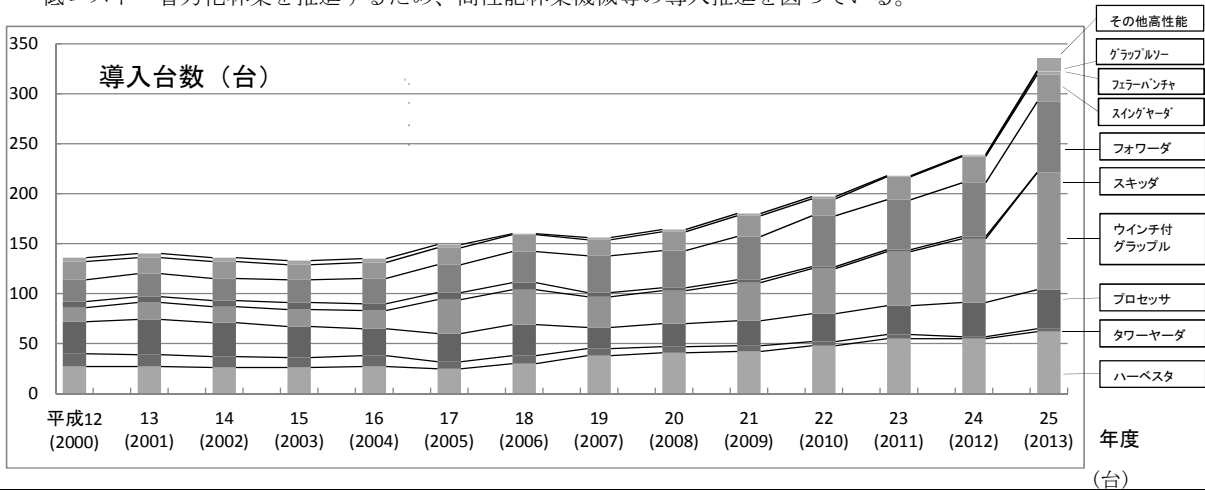
年度	昭和49 (1974)	54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
事業費(百万円)	237	1,095	898	1,034	2,727	2,228	374	54	90	785	492	466	503

林産振興室 (平成26年3月31日現在)

(4) 高性能林業機械等の保有状況

低コスト・省力化林業を推進

低コスト・省力化林業を推進するため、高性能林業機械等の導入推進を図っている。



年 度	平成12 (2000)	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
ハーベスタ	27	27	26	26	27	25	30	38	41	42	48	55	55	62
タワーヤーダ	13	12	11	10	11	7	8	7	6	6	4	4	2	3
プロセッサ	32	35	34	31	27	28	31	21	23	25	28	29	34	39
ウインチ付グラブ	14	17	16	17	18	34	35	31	33	38	45	54	64	117
スキッダ	6	6	6	7	7	7	7	4	3	3	2	2	2	0
フォワーダ	22	23	22	23	25	28	31	37	37	43	51	50	54	71
スイングヤーダ	18	16	17	15	16	17	17	16	19	21	17	23	26	27
フェアバンチャ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
グラブソナー	4	4	4	4	4	3	1	2	2	2	2	1	1	3
その他高性能機械														12
保有累計台数	136	140	136	133	135	149	160	156	164	180	197	218	239	335

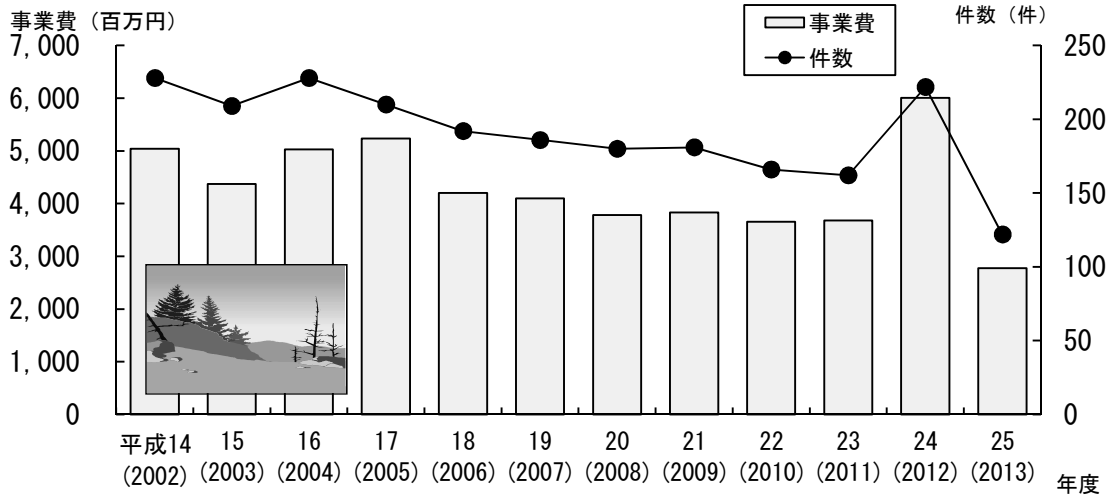
林務管理課 (平成26年3月31日現在)

## 6 森林の保全と活用

### (1) 治山事業実績の推移

平成25(2013)年度治山事業実績は約27.7億円

本県の山地災害危険地区は平成25(2013)年度末現在6,812箇所、12,631haである。治山事業は県民の生活環境を保全形成し、安全・安心な暮らしを守るため、山地災害の防止や水源かん養機能の拡充強化を図っている。



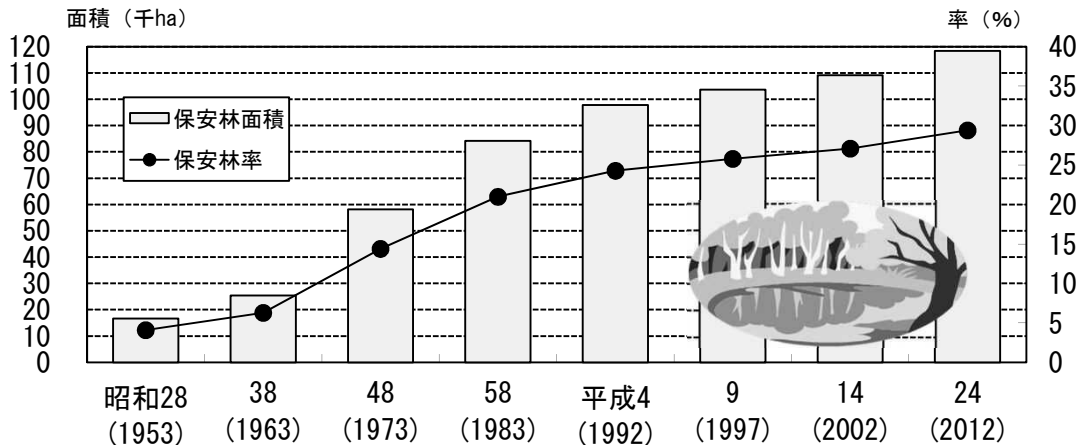
年 度	平成14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)
件 数 (件)	228	209	228	210	192	186	180	181
事業費 (百万円)	5,043	4,370	5,028	5,235	4,205	4,100	3,781	3,832
年 度	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)				
件 数 (件)	166	162	222	122				
事業費 (百万円)	3,654	3,682	6,007	2,773				

森林保全課 (平成26年3月31日現在)

### (2) 保安林面積の推移

保安林指定面積は着実に増加し、平成24年度に11.7万haを超えました

保安林の指定森林は着実に拡大し、平成24年度に11万7千haを超え、民有林面積の29.0%に達した。保安林では森林の保全と適正な施業の実施により、公益的機能の発揮に努めている。



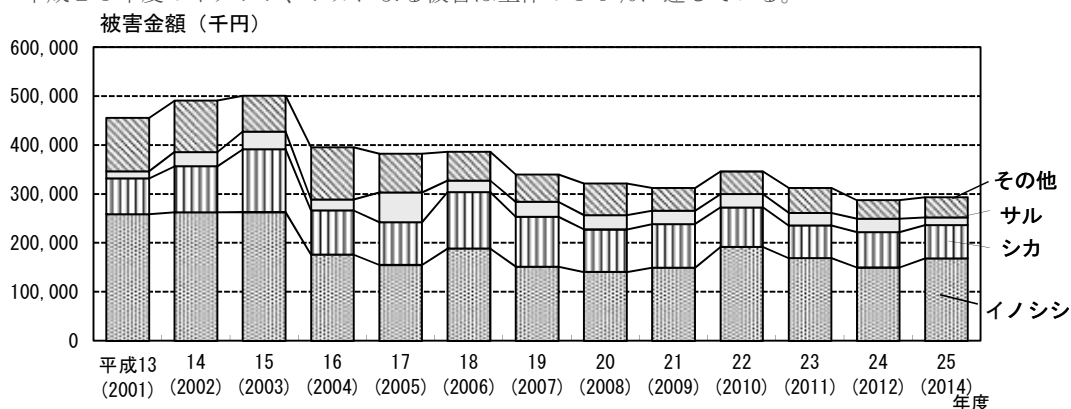
年 度	昭和28 (1953)	38 (1963)	48 (1973)	58 (1983)	平成4 (1992)	9 (1997)	14 (2002)	24 (2012)
保安林面積 (千ha)	16.7	25.4	58.1	84.2	97.1	103.7	109.1	118.4
保安林率 (%)	4.1	6.3	14.4	21.0	24.2	25.8	27.1	29.4

森林保全課 (平成25年3月31日現在)

(3) 主な鳥獣害による農林作物被害

シカによる被害が増加

被害総額は平成24年度に引き続き3億円を下回った。  
平成25年度のイノシシ、シカによる被害は全体の80%に達している。



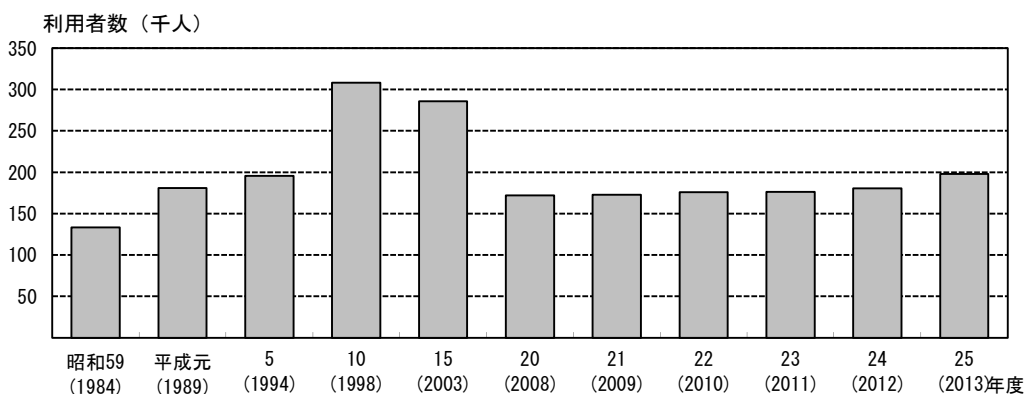
(単位：千円)

年 度	平成13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)
イノシシ	259,101	262,840	263,086	176,092	155,386	188,692	151,704	140,666
シカ	72,944	94,184	128,682	90,366	87,342	115,393	101,820	87,099
サル	14,639	28,760	36,062	22,474	60,851	23,405	30,544	29,340
その他	109,285	105,164	73,402	107,091	78,961	59,190	55,914	65,009
合 計	455,969	490,948	501,232	396,023	382,540	386,680	339,982	322,114
年 度	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2014)			
イノシシ	149,440	192,121	169,086	150,147	168,496			
シカ	89,588	80,635	66,667	71,961	67,999			
サル	26,977	27,183	26,061	27,700	15,978			
その他	46,510	46,359	51,063	37,667	41,254			
合 計	312,515	346,298	312,877	287,475	293,727			

森との共生推進室 「鳥獣関係統計」 (平成26年3月31日現在)

(4) 県民の森施設利用者数の推移

森林、自然とのふれあいを通し、県民の保健、休養に資するとともに、憩い、学び、体験できる施設として維持・管理を行っている。



年 度	昭和59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1994)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
利用者数 (人)	133,380	180,817	195,485	308,336	285,758	172,026	172,664				
年 度	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)							
利用者数 (人)	175,812	176,310	180,366	197,869							

森林整備室 (平成26年3月31日現在) (注) 平成18年度より公の施設の利用人員に限定して集計

発行日／平成27年3月  
発行者／大分県農林水産部林務管理課  
〒870-8501  
大分市大手町3-1-1  
TEL097-506-3816



# 1 森林資源の現況

## (1) 森林面積

### 森林率は72%で、全国平均を上回る

森林面積は45万3千haで、総土地面積の72%を占めており、全国平均を上回っている。地域森林計画対象民有林の面積は40万2千haである。

	大分県	全国
国土面積(千ha)	634	37,796
森林面積(千ha)	453 (449)	25,081
森林率(%)	72	67

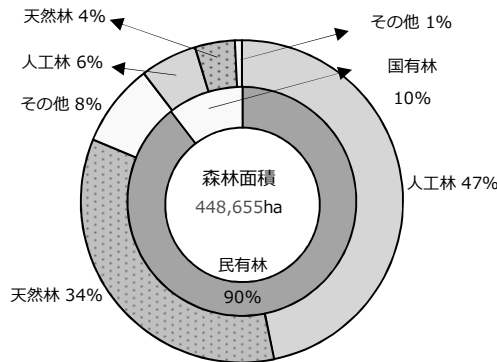
国土面積： 全国都道府県市区町村別面積調（平成25年10月1日）

森林面積： 森林法第2条第1項に規定する全ての森林（林野庁「森林資源現況」：平成19年3月31日現在）

※ 森林法第2条第1項に規定する森林： 地域森林計画に規定する民有林+その他の森林（市街化区域及び林野庁以外の省庁が所管する森林等）+林野庁所管国有林

※ ただし、カッコ内は地域森林計画対象民有林（林務管理課：平成26年3月31日現在）+林野庁所管国有林（九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」：平成21, 23, 24, 25年度）

森林率： （森林法第2条第1項に規定する全ての森林）÷（総土地面積）



単位：ha

	人工林	天然林	その他	計
民有林	209,909	154,532	37,449	401,890
国有林	25,540	18,080	3,015	46,635
計	235,449	172,612	40,464	448,525

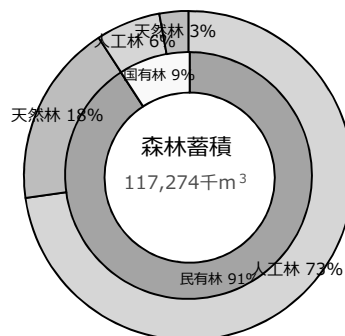
国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成21, 23, 24, 25年度）

民有林：林務管理課「地域森林計画対象民有林」（平成26年3月31日現在）

## (2) 森林蓄積

### 民有林の森林蓄積は91%を占める

森林蓄積は1億2千万m<sup>3</sup>であり、うち民有林における森林蓄積は1億6百万m<sup>3</sup>で91%を占める。



単位：千m<sup>3</sup>

	人工林	天然林	計
民有林	85,401	21,079	106,480
国有林	7,461	3,332	10,794
計	92,862	24,411	117,274

国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成21, 23, 24, 25年度）

民有林：林務管理課（平成26年3月31日現在）